

某熊見山（1327.8m）・日勝ピーク（1445m）

平成30年1月13日（土）～14日（日）

山行リーダー 渡邊（スキー）

スキー班

L 藤木（晴）、S L 西田（芳）、酒井、相馬、山岸、若林（13日のみ）

笹山、佐藤（尚）、水江

スノーシュー班（14日のみ）

L 藤木（た）、西田（昌）、太田、門馬、鈴木（徳）

1月13日（土）

6：00 幌別駅前出発

10：50 某熊見山登山口出発

12：10 ピーク着

12：40 昼食休憩

（約1090m地点）

13：15 登山口着



風もなく、天気もまずまずで期待が高まるが、雪が少ないのが気になる。登山口でこの日だけ参加の W さんと合流。狭い駐車場にはすでに先行者の車があり、我々とタッチの差でツアーらしいワゴン車が到着。彼らは別の駐車場に移動した。

すでに入山したパーティのトレースを使わしてもらう。急斜面を登り、樹林帯を出たところで尾根をたどっていく。例年だと大きな雪庇が形成されているそうだが、まだ小さくなっていない。1時間20分でピークに着く。そこで偶然にもスキー、スノーシュー



混合の恵庭山岳会の5人と出会う。写真撮影に協力してもらい、簡単な情報交換の後、シールを外して滑降開始。パウダースノーの中、思い思いのシュプールを楽しむ。途中の樹林帯で昼食休憩。風もなく、暖かいのでツェルトなしでも大丈夫だった。1日目の人数が少ないせいか予定より早く登山口に着いた。

日高ロッジに到着後、早い宴会体制に入る。夕食予定の5時になるころには皆すでに出来上がっていた。山談議に花が咲き、とめどなく長い時間が過ぎていった。

1月14日（日）

7：56 研修所合流

9：02 日勝ピーク登山口出発

10：40 ピーク

11：35 下山開始

12：03 スキー班、堀ゲレンデ滑降開始

12：22 登山口着

朝4時過ぎに室蘭を出たOさんの車で14日だけ参加のスノーシュー班5人が日高ロッジについたのが、予定の4分前。4台で登山口へ向かう。駐車場にはすでに数台の車があり、先行グループがかなりいるようだ。トレースが縦横についており非常に助かる。雪の量はさほど多くはないが気温が低く（－14度とのこと）雪質は申し分ない。天気は良いが雲の動きが速い。ピークは風がありそうだ。昨日より大所帯のため途中休憩を入れながらゆっくり進む。眺望がすばらしい。トムラウシをはじめとする表大雪の山々、ニペ・ウペ、十勝岳連峰、遠くは阿



寒の峰々まではっきりと見渡せた。頂上直下では急斜面を避けて左へ巻き気味に上り、1時間40分でピークを踏む。寒風が肌を突き刺し長居はできない。そそくさと写真撮影を終え、ちょっと下がったところでツェルトを張り、昼食をとる。

昼食後、スノーシュー班は来た道を下り、スキー班は堀ゲレンデへ向かう。



雪は少ないものの、極上のパウダーを堪能し、スキー班一同大満足。途中、右の沢形を目指してトラバース気味に下ると、勘がさえて左岸から右岸へ移る地点である滝の上にピタリと着いた。以後、斜面をトラバースしながら下り、駐車場上に到着。申し合わせたようにスノーシュー班と合流した。別行動ながら息の合った団体行動に登別山岳会の結束力を見る思いがした。

2日間とも晴天で申し分ない眺望、パウダーに恵まれた山行で大満足だった。

文責：水江